熊本県立岱志高等学校　全日制課程　令和２年度学校評価計画表

Ａ：十分達成できている　Ｂ：概ね達成できている　Ｃ：やや不十分である　Ｄ：不十分である

１ 学校教育目標
１　夢（志）を描き、夢の実現への挑戦‥‥志を育み、励まし、鍛え、伸ばす ２　心の教育の充実‥‥自己肯定の心と命を大切にする心、郷土を愛する心の育成 ３　確かな学力の育成‥‥基礎・基本の確実な定着。個に応じた指導の充実 ４　生徒指導の充実‥‥基本的生活習慣の確立及び自律心の育成

２ 本年度の重点目標
（１）特色ある学校づくりを推進する。 （２）学力の向上と進路保障の取組を強化する。 （３）健全な心身を育成する。 （４）安心・安全な学校を維持する。 （５）地域社会に期待に応え、活力ある学校づくりに努める。

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価 A～D	成果・課題等
学校経営	安全・安心な学校づくり	○事前の危機管理の徹底	○いじめ及び重大事態の未然防止	○「熊本県いじめ調査委員会調査報告書」の提言に基づく学校改善計画の策定と実践	B	○改善計画を策定した。授業規律の回復と言語環境の整備は継続課題である。
		○災害発生時における安全確保	○年２回の防災避難訓練実施（事前学習含む） ○荒尾市総合防災訓練への参加	○実践的な防災避難訓練の実施とその事後評価に伴う防災マニュアルの見直・改善 ○地域住民の参加を促す。	C	○コロナ禍の影響で十分な避難訓練ができなかった。 ○総合防災訓練は見直しを行い、実施した。６名の地域住民の方が参加した。
	学校の活性化	○地域、中学校、保護者への情報発信 ○学校ＰＲと情報発信	○前期定員の充足 ○受検者数１００名以上	○ＨＰの即時更新 ○体験入学の充実	B	○学校紹介動画をアップすることができた。 ○入試関係連絡を即時更新することができた。 ○定期的な更新が不十分だった。 ○中学生が興味関心を持てるような体験入学の内容ではなかった。
		○開かれた岱志高校の実現	○本校の特色を生かした学校づくり ○地域への公開授業の実施	○荒尾市の支援事業と提携した学校づくり ○地域や管内中学校への公開授業の案内	C	○荒尾市とのワークショップを開催したが具体策は未定である。 ○地域等に向けた公開授業、研究授業は実施できなかった。

	業務改善 及び 働き方改革	○労働時間の縮減 ○働く意欲の向上	○「県立学校の教職員の在校等時間の上限」の遵守 ○ＯＪＴの推進と業務への適切な評価	○本校の部活動の指針の遵守 ○職員一人一人の業務の把握と適正な評価	C	○コロナ禍の中、昨年と比較して総労働時間数は減った。しかし一部職員に業務が偏る傾向がある。 ○プロジェクトリーダーに任命するなど人材育成を進めている。
学力向上	授業を主体とした学力向上の取組	○３年間を見通した計画的な授業の実践	○シラバスに基づいた授業時数の確保	○教科ごとのシラバスの作成と効果的な活用	B	○課題や教科の個別指導を教科担当者任せにするのでなく、学校組織として計画的に実践する必要がある。
		○分かる・できる授業の工夫・改善	○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善（授業評価の活用） ○全教科研究授業の実施	○授業評価による実態把握と分析（７月、１２月） ○教育センター指導主事やスーパーティーチャーを招いた研修の実施 ○教務部企画による研究授業の推進（研究授業強化月間を通じての授業の工夫改善）	C	○授業評価アンケート結果を分析し、授業改善に努めた。 ○教育センターやスーパーティーチャーを活用した研修が実施できなかった。 ○研究授業等の実施が少なく、授業改善への取組が不足している。
	自学力の醸成	○生徒自ら学ぶ姿勢の確立及び学び力の向上	○定期考査前１週間の家庭学習時間平均 １５０分以上	○定期考査前１週間と考査期間中の家庭学習時間調査の実施と分析	B	○結果を分析し、フィードバックすることができた。
		○目標に向かって地道に努力を積み重ねる生徒の育成	○基礎的・基本的な内容の定着	○夕学習会の充実 ○ネットやＩＣＴを活用した自学指導	B	○昨年度の反省を生かし夕学習会の充実を図った。 ｃｌａｓｓｉによる自学指導は効果的にできなかった。 ○ＩＣＴ活用について、職員研修の機会を増やしたい。
キャリア教育（進路指導）	進路意識の高揚	○自己理解と職業理解	○オープンキャンパスや企業見学へ学年で１回以上参加し、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解推進	○インターンシップ、企業見学、進路の日（校内の進路学習）、保護者ガイダンス、校外ガイダンス、オープンキャンパス、ポートフォリオ等	B	○校内での活動に重点を置き、Ｗｅｂを通じて企業説明会に参加したり、キャリアサポーターの講話・面談を通して職業理解を深化させたりした。
		○主体的な進路選択	○進路目標の明確化 （暫定値） １学年：６０％ ２学年：８０％	○進路の日（校内進路学習）の充実、進路のしおりの活用、三者面談、進路志望調査、希望者対象職業人講話		（１学年） ○進路希望が定まっている（なんとなくを含む）生徒は５１％ ○進路のしおりはLHRで活用した。 ○ＬＨＲや保護者会で、生徒及び保護者への説明を行った。

					B	（２学年） ○進路目標が明確な生徒…７０％ ○進路のしおりを三者面談で活用した。 ○大学、短大、専門学校、就職に分け、保護者及び生徒を対象に進路別説明会を行った。
	基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成	○基礎学力の定着	○基礎力診断テスト第１回テストから第２回テストへのＧＴＺ上昇 ○学習会発展コース参加者の家庭学習の充実	○基礎力診断テストの実施、事前学習教材の活用、分析会の実施 ○夕学習会の充実 ○デジタル教材配信による学習支援	B	（１学年） ○基礎力診断テスト２回目では生徒の５４％のGTZが上昇 ○学習会参加者には補填、発展的な指導ができ、家庭学習の充実につながった。 （２学年） ○基礎力診断テスト２回目は事前学習教材を十分に活用することができ、生徒の基礎学力の定着・学習意欲の喚起につながった。 ○生徒は夕学習会に積極的に参加し、学力の向上につながった。 ○デジタル教材配信資料等による、個別の学習支援を活用した。 （３学年）基礎力診断テストと事前・事後の授業との関連付けが十分ではなかった。
		○自己理解の定着と個に応じた学習指導	○面接・小論文及び志望理由書の書き方等の研修実施、小論文模試の実施	○面接・小論文及び志望理由書の書き方等の研修実施	B	○職員に対して、オンライン研修の機会を設けた。小論文模試は実施していないが、各学年で必要に応じた文章指導ができた。
生徒指導	生活指導の充実	○「岱志五原則」に則った基本的生活習慣の習得	○年８回の頭髪服装指導と毎朝の登校指導の実施による違反者・遅刻者等の減少	○中高連絡会の実施 ○服装頭髪検査事後指導の一元化と徹底 ○登校指導、あいさつ運動の実施、遅刻者の正確な把握と事後指導の徹底	B	○中高間の連絡によって、生徒の実態に応じた指導へとスムーズに移行することができた。 ○検査後の指導が徹底できず改善が図れなかった。
		○問題行動の未然防止と発生後の対応	○日常の指導の機会、講演会等による規範意識の涵養 ○問題発生後の速やかな実態把	○登校指導、あいさつ運動の実施、遅刻者の正確な把握と事後指導の徹底 ○貴重品管理の随	B	○職員が日々登校指導にあたったことで実態を把握することができた。遅刻常習者への指導が行き届かなかった。

			握、指導方針の明確化と育成的な指導	時指導及び移動教室の際の施錠徹底 〇関係各所等の積極的な巡回		〇貴重品管理に対する生徒への啓発が後手に回った。
	交通安全教育の充実	〇交通マナー及び危険予知能力の育成	〇交通事故件数の減少	〇登下校指導の徹底 〇交通講話の計画・実施 〇荒尾警察署との連携	B	〇交通安全に対する啓発はできたが、登下校時における交通マナーの遵守に課題がある。 〇交通講話は実施することができた。 〇荒尾警察署との連携はできている。
			〇二重ロック率の向上	〇自転車ステッカー点検 〇鍵かけ運動の実施	C	〇ステッカーの貼り付け率は向上した。 〇自転車盗難に対する鍵かけは不徹底だった。
			〇原付通学生の違反や事故防止の徹底	〇年２回の原付実技講習の実施 〇原付通学生登校指導の実施	B	〇実技講習の実施により交通安全に対する意識が向上した。 〇危険予測の講習を行い、更なる交通安全への意識向上を図る必要がある。
	生徒会、委員会活動の活性化	〇部活動の充実	〇部活動加入率９０％	〇学期ごとに部活加入を推進する機会の設定	C	〇部活動加入に対する啓発が不足した。
		〇生徒会活動の活性化	〇生徒を主体とした学校行事の運営	〇生徒会・ボランティア部、学年による広報・啓発 〇生徒会・各部長を対象としたリーダー研修の実施	B	〇生徒会が中心となって校内に意見箱を設置するなど、自主的な活動ができるようになった。 コロナ禍のため、ボランティアができなかった。 〇生徒会活動に対する全生徒への啓発、周知がうまくできなかった。
	保護者、地域、関係諸機関との連携	〇ＰＴＡ、各校種、関係機関等との情報交換による問題行動の未然防止	〇保護者や地域からの情報を即座に収集する組織づくり	〇幹事会、若草会に毎回出席し本校生徒の現状や地域の現状を把握 〇ＰＴＡ役員会等における情報収集	B	〇地域、各学校との連携を図ることができ本校の魅力発信をすることができた。 〇ＰＴＡとの情報交換の場を設定できなかった。
人権教育の推進	研修の充実及び 系統立てた人権教育の実践	〇校内外の研修の充実	〇教育相談係や保健部、学年部との連携及び外部機関との情報交換	〇全職員年１回以上校外研修への参加	D	〇新型コロナウイルス感染防止のため校外研修がほぼ中止（延期）となった。
		〇系統立てた特設授業の実施	〇特設授業を各学年で年間３回実施	〇教務部、各学年との連携による計画的実施	C	〇学期１回はできていない。時間の確保等の課題がある。
	命を大切にする心を育む指導の実践	〇人権擁護に関する意欲・態度の涵養	〇「平和と人権の集い」の実施、「心と命の取組」を通年で実践	〇人権教育係が企画し、学年部と連携し全校集会やＬＨＲ等で実施	A	〇多くの職員の協力を得て、通年で取り組むことができた。
		〇生命の大切さを理解し、自他	〇各教科、各領域における「命	〇各教科・各領域で実践、研究及び	D	〇各教科、各領域に対する投げかけや実

		の生命を尊重する生徒の育成	を大切にする心」を育む指導の実践	連携		践が一層求められる。
いじめの防止等	いじめの未然防止（重大事態の再発防止）	○いじめの未然防止	○「いじめの未然防止指針」の策定 ○各マニュアルの見直し ○岱志高校の「新しい生活様式」の策定と実践	○全職員の意見を取り入れた指針の策定と遵守 ○各マニュアルの改訂 ○「生徒の小さな変化を見逃さない」ことの実践	B	○熊本県の基本方針に基づいて本校の基本方針を策定した。 ○重大事態への対応マニュアルを改訂した。 ○岱志高校の「新しい生活様式」を策定したが、生徒の実際の行動につながっていない。
	いじめの防止及び健全・良好な人間関係の構築	○いじめを防止するための組織的な取組	○いじめを防止するための情報交換 ○いじめが発生したとき迅速な対応	○全職員で生徒の普段の学校生活を観察 ○中高連絡会の開催 ○職員が主体的に参加する研修の実施	B	○研修等による啓発で職員全体のいじめ防止に対する意識が高まった。 ○初動対応に対する職員の対応方法の統一化が課題である。 ○市が開催する連絡会に参加し、情報を共有した。
		○いじめを起こさない環境づくり	○言語環境の整備 ○教育相談、道徳教育及び体験活動の充実による互いを認め合う関係の構築	○授業等における適切な言語の使用 ○「心のアンケート」を学期ごとに実施 ○担任面談の充実 ○１年生１学期にコミュニケーションプログラムＬＨＲの実施	B	○生徒に対する粘り強い指導が必要である。（不適切な言語使用は減っていない。） ○アンケート結果をもとに、必要な生徒への SC 面談を実施し、SSW につなげることができた。職員のカウンセリングスキルの向上が課題である。
特別支援教育	特別支援教育指導力の向上	○特別支援教育に関する職員の意識向上	○障がいや特性に関する職員の理解の深化	○特別支援教育に関する研修の実施 ○生徒理解研修の実施 ○ケース会議の実施 ○SC・SSW・巡回相談等の専門性の共有	B	○職員研修や生徒理解研修について、研修内容を十分に検討し、実施することができた。また、関係機関との連携も積極的に行うことができた。研修で学んだ内容を実践することが課題である。

		○個に応じた支援の実践	○学校不適応行動（不登校等）の未然防止・早期対応・支援の実践	○学校不適応行動に対する本校の支援ロードマップ作成 ○生徒の情報や状況をとりまとめ、情報共有する ○配慮が必要な生徒の個別の教育支援計画の作成 ○関係機関（SC・SSW・医療機関・巡回相談等）と連携した生徒支援体制の構築	C	○生徒についての情報共有と関係機関との連携はできた。 ○生徒の困り感に寄り添った対応や関わりについて、早期の対応やきめ細かな対応が十分にできなかった。 ○SC・SSW・巡回相談員との連携を図ることができた。
	通級制度の確立	○個に応じた自立活動の授業の実践	○自立活動理解の啓発 ○自立活動の授業スキルの向上	○通級制度についての啓発活動（生徒・職員・保護者・中学校等） ○通級での学びと職員の関わりの連携 ○担当者の研修参加 ○授業のPDCAサイクルの実践	B	○通級での学びを日常生活で生かす取り組みができた。計画的で系統的な取組や授業内容の充実、職員のスキルの獲得が今後の課題である。 ○通級指導に多くの職員が参加した。生徒との関係性が今までよりも深まった。
	防災型コミュニティ・スクールによる地域との連携	○地域における防災拠点づくり（受援対応施設）	○災害時における地域との連携協力体制の構築	○学校運営協議会の実施（年３回） ○荒尾市総合防災訓練へ職員と生徒の参加（１１月）	C	○学校運営協議会は１回しか実施できなかった。 ○防災訓練は職員と地域住民で行った。
	荒尾市との共働による地域と学校の活性化	○ＳＧＬＨ事業の 推進 ○地域イベント参加による市への貢献	○地域資源の活用とグローカル人材の育成 ○荒炎祭や市政フォーラムへの積極的参加	○地域探究活動の実施と地域の活動への参加 ○生徒会を中心とし、生徒が主体となる取組の実施	B	○荒尾市との協力で、ワークショップを開催した。 ○１年生の総合的な探究の時間に地域理解の課題学習を行った。 ○コロナ禍の影響で地域イベント等がほとんど開催されなかった。
		○学校の特性を生かしたタイアップ行事の実現	○「岱志塾」や「タグラグビー教室」の実施充実	○岱志塾の実施 ○タグラグビー教室の実施	B	○コロナ禍の影響で岱志塾は開催できなかった。 ○タグラグビー教室を開催し、地域に貢献することができた。
環境教育	美化活動の充実	○生徒主体の環境美化 ○全校での環境教育推進活動の実践	○環境美化委員による校内美化評価と全生徒・職員での環境美化推進 ○校内と校外で清掃活動を実施（学期１回）	○月に２回、生徒による美化評価を実施し、日常の環境美化を促進 ○校外清掃活動については荒尾市と連携しながら実施	C	○計画通りに実施できなかった。 ○２学期に校外清掃を実施した。 来年度は校内美化評価等において、生徒の主体的活動になるようにしたい。
	地球環境保全活動の推進	○学校版環境ＩＳＯの取組の充実	○省エネ・リサイクル活動の全生徒・全職員による取り組み推	○電気・水道使用量を前年度と比較し、「エコ伝言板」で広報	C	○「エコ伝言板」を活用した広報ができなかった。コロナ感染症予防のためのエ

			進 ○資源の有効活用	○裏紙の利用推進		アコン使用時の換気や手洗い促進で、電気、水道料とも増加した。

４　学校関係者評価

○小規模校の特性を生かしたきめ細かな指導や教育活動をさらに進め、特色ある学校づくりに取り組んで欲しい。

○生徒のアンケートで「岱志高校に入学してよかった」の割合が高い。中学校で登校できなかった生徒が、充実した高校生活を送っていると聞いており、感謝している。

○地元の高校に通わせたいという保護者も多数いる。岱志高校にはまだまだ魅力がある。魅力や教育活動の成果をさらに発信してほしい。

○生徒確保について。玉名・大牟田に多くの公・私立高校があるなか、県立学校の普通科のメリットや魅力が感じられない。私立高校は自校の特色を強く打ち出してきている。県立学校は広報のタイミングも遅いし、学科の特色を打ち出しづらい。もはや一学校の問題ではない。

５　総合評価

○学校経営

新型コロナウイルスの影響で行事や部活動の大会が極端に減少し、発信する情報の内容が乏しかった。加えてＨＰの更新が鈍かった。本年度は普通科で前期（特色）選抜を実施した。しかし、目標とした「前期（特色）選抜定員の充足」では、８０人の募集人員に対して２４人の出願に留まり、後期（一般）選抜の受検者数も５人と、目標に及ばなかった。

【学校評価アンケート】※％は「よくあてはまる＋あてはまる」の数値

職　員：「学校の良い所や生徒のがんばりを保護者や地域に伝えている」６４．５％

生　徒：「学校外で、学校や生徒のがんばりやよい評判を聞くことがある」２８．７％

保護者：「学校の良い所や生徒のがんばりが保護者や地域に伝わっている」５６．２％

→情報発信については、対象や方法、時期などを検討し、戦略をもって取り組む必要がある。

○学力向上

「授業を主体とした学力向上の取組」は一定の成果があった。公開授業週間を設定し、職員の参観も多かった。高校教育課の学校訪問では、ＩＣＴを活用した授業実践を行い、高い評価を得た。主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善の取組を継続する。

【学校評価アンケート】

職　員：「私は生徒が積極的に参加する授業を行っている」８５．７％

生　徒：「先生方の授業は分かりやすい」７１．３％

保護者：「子どもは、授業を楽しく受けている」６８．１％

→授業改善に積極的に取り組んでいる職員は多い。一人一人の学力や進路希望等にきめ細かく対応できる授業が求められる。

「自学力の醸成」について、定期考査前１週間の家庭学習時間平均１５０分を目標としたが、２学期中間考査前が平均７３分（昨年６１分）、２学期期末考査前が平均８０分（同７３分）と目標の半分程度だった。

【学校評価アンケート】

職　員「学校は家庭学習の習慣化や学習意欲を伸ばす工夫をしている」５３．４％

生　徒「毎日、家庭で学習をしている」３０．２％

保護者「子どもは、予習・復習などの家庭学習を行っている」２９．５％

→学習習慣の定着は進路目標の達成につながる。本校の場合は、まず生活習慣の定着を図ることが必要である。生徒一人一人の学習についての困り感や進路希望を把握し、必要があれば個別指導を行う。

○キャリア教育（進路指導）

コロナ禍のなか、２年生のインターンシップや職業人講話などができなかったが、学年を中心に進学や就職についての説明会などを実施した。機会に恵まれなかった１、２年生については、今後、進路意識を高める場を多く設けたい。

【学校評価アンケート】
職　員「進路に関する取組は生徒の進路意識を高めている」７７．４％
生　徒「進路講演会や説明会などは、進路を考えるよい機会になっている」６５．１％
保護者「子どもは、進路講演会や説明会等への参加をとおして、積極的に進路を考えるようになった」６４．８％
生　徒「進路について不安や悩みがある場合は、先生に相談している」４２．７％

→生徒一人一人の適性や進路希望、保護者の考えを把握したうえで指導にあたる必要がある。そのために日頃の面談（担任、副担任、教科担任）の充実を図りたい。
昨年度の反省を踏まえ、「基礎学力の定着と思考力・表現力の育成」を目指し、夕学習会や課外を実施した。学習意欲の高揚を図る取組をさらに進めていきたい。

○生徒指導

「生活指導の充実」について、岱志五原則（時間の厳守、服装の厳正、けじめある生活態度、通学マナーの向上、さわやかな挨拶）を実行し、生活規律の遵守を目指した。職員全体で生活指導にあたることがまだできていない。服装・頭髪指導、遅刻指導は今後の継続課題である。生徒の話を傾聴し、生徒が理解できる言葉で指導にあたるとともに、教職員が範を示さなければならない。
大きな事故は起こっていないが、自転車の「ながら」運転や並走、バイクのスピード超過などで、外部から指摘を受けた。交通ルールとマナーを守ることが自分と他者の命を守ることにつながるということを、自分の事として捉えることができるよう指導を行っていく。

【学校評価アンケート】
職　員「生徒は時間の厳守や身だしなみなど、学校のルールを守っている」３２．３％
生　徒「生活五原則を守り、岱志高生として自信と誇りをもって生活している」７７．５％
保護者「子どもは、学校のルールを守っている」８２．０％
職　員「本校生は交通ルールやマナーを遵守している」３５．５％
生　徒「交通ルールや交通マナーを守り、交通安全に努めている」９０．７％

→学校の規則や交通ルール・マナーの遵守について、昨年度以上に職員と生徒・保護者間の評価が分かれた。職員が求めるものと生徒のルールやマナーに対する理解の乖離について分析し、効果的な指導を行う必要がある。

○人権教育の推進

「研修の充実及び系統立てた人権教育の実践」について、コロナ禍の影響で校外研修等の中止が相次ぎ、研修の機会が極めて少なかったが、校内研修や人権教育の学習指導をとおして人権意識を高めることができた。

職　員「私は人権に対する知的理解の深化と人権感覚の高揚のため、関係研修会に積極的に参加している」５１．６％
生　徒「本校では、人権や命の大切さについて学ぶ機会が多い」７７．５％

→人権教育はあらゆる教育活動の根幹である。本校は積極的に研修に参加する職員多い一方で、基本的な知識が不足している面もある。来年度は、校外研修への参加を積極的に勧めるとともに、職員が主体的に計画し、学ぶことができる校内研修を実施したい。また、人権を大切にする視点を常に持って、あらゆる教育活動に臨みたい。

○いじめの防止等

昨年度に引き続き「いじめの未然防止（重大事態の再発防止）」を本校の最大の目標とした。県の基本方針の改訂に基づき、本校の「いじめ防止基本方針」及び「いじめが背景に疑われる重大事態への対応マニュアル」を改訂した。いじめ防止対策委員会が対象としたいじめの件数は少ないが、学校が見えていないだけである。ＳＮＳ上のトラブルがあがってこなかったが、「何かが起こっているかもとしれない」という意識を持つことが必要である。
言語環境の整備について、生徒が不適切な発言をした場合にはきちんと指導している。しかし、不適切な発言はなかなか減らず、継続した指導が必要である。また、職員が正しい言語を使用し、言語環境を整えることも大切である。

生　徒「自分だけでなく、他の人も大切にする雰囲気づくりをしている」８３．７％
生　徒「インターネットや携帯電話等を使って他人をおびやかすようなことはしていない」
８９．９％
生　徒「楽しく学校生活を送っている」８０．６％
保護者「子どもは、いじめや差別を許さないという意識を持っている」９４．３％

→危機管理部を中心に生徒が抱える課題について情報を収集し、職員で共有することができている。今後もアンテナを高く張って学校の安全・安心を維持したい。ＳＮＳ上のトラブルは学校だけでは解決できない。家庭や関係機関との連携を一層強めていく。

○特別支援教育

危機管理部（生徒支援）が中心となり、①教室に入ることができない生徒への対応、②通級制度、③情報の共有に取り組んだ。①について、昨年度から運用し、適切な対応ができた。②について、昨年度から引き続き２名の生徒が利用していて指導の成果が見られた。全職員が指導のノウハウを得るよう努める必要がある。③について、職員研修、学年会、運営委員会等で情報を共有している。

職　員「私は教育相談に積極的に取り組み、指導・支援に努めている」９３．３％
生　徒「先生方は、悩みや相談に親身になってこたえている」６２．８％
保護者「職員は、生徒の悩みや相談に親身になってこたえている」８５．１％

→校内研修は充実しており、職員の意識も高い。通級指導にも積極的に参加する職員は多いが、まったく指導を参観しない職員もいる。特別支援教育については、職員が担当者に頼る場面が多く、担当者に業務が集中している。そのため、職員全体のスキルアップが必要である。
また、日頃の担任（副担任）と生徒との面談が少ない。ちょっとした時間や場面を生かして生徒理解に努めなければならない。

○地域連携

「地域における防災拠点づくり（受援対応施設）」については、荒尾市総合防災訓練に職員が参加し、物品の搬入・保管・搬出の方法を確認するなどの活動ができた。昨年度の反省を踏まえ、地域の方に参加いただいた。「荒尾市との共働により地域と学校の活性化」では、本校の魅力づくりについて、荒尾市と本校生徒、職員、同窓会、保護者等とのワークショップを行った。荒尾市立図書館の移転に係るワークショップにも参加した。岱志塾は、コロナ禍のため実施できなかったが、ダグラグビー教室で本校のコースの特色を生かした地域貢献ができた。

○環境教育

「美化活動の充実」について、昨年は校外清掃活動を３回実施したが、本年度はコロナ禍のため１回しかできなかった。生徒は昨年度以上に積極的に取り組んだ。
生徒数の割には校地が広く、普段の掃除が行き届いていない。掃除をさぼってどこかに行ったり、掃除の仕方が分からなかったりする生徒も一部いる。校外の清掃活動ももちろん大切であるが、日々の掃除への取り組みを重視したい。
「地球環境保全活動の推進」については、そもそも課題設定が大きすぎる。学校版環境ＩＳＯの内容も、その活動が見えなかった。省エネ・リサイクル・プラスティックゴミの削減や分別の徹底など、普段の生活の中で取り組むことができる目標設定を行いたい。

職　員「学校は地域清掃活動により地域貢献を図っている。」　９３．５％
職　員「学校は環境ＩＳＯ宣言項目の啓発・周知を図っている」３８．７％
生　徒「日頃からゴミの減量や分別、節水、節電などに積極的に取り組み、エコ運動に心がけている」　６５．９％
職　員「学校では、全職員が生徒共に掃除に取り組み、校内美化の充実が図られている」
８７．１％
生　徒「掃除には一生懸命に取り組んでいる」　７６．７％
保護者「学校は、校内の環境美化が行き届いている」８７．７％

→職員と生徒間で取り組みについて認識の差がある。（生活や交通ルールの遵守でも同じ傾向が見られた。）　職員が求めることと生徒の認識に差があること踏まえたうえで、まず自分の担当場所をきちんと清掃することができるように指導を徹底したい。

○生徒・保護者・教職員・地域が「岱志に来てよかった、岱志にやってよかった、岱志に勤めてよかった、そして岱志がここにあってよかった。」と思える学校を目指す

職　員「本校での勤務は充実している」	７４．２％（19.4＋54.8%）
生　徒「本校に入学してよかった」	７８．３％（21.7＋56.6%）
保護者「子どもを本校に入学させてよかった」	８２．７％（39.7＋43.0%）

６　次年度への課題・改善方策

【次年度の目標】生徒が健康で安心・安全に生活できる学校づくりと生徒確保

（１）いじめの未然防止

ア　「熊本県いじめ調査委員会調査報告書を踏まえた学校の改善について」及び「岱志高等学校いじめ防止等基本方針」に基づいた取組と振り返りの継続
イ　生徒の小さな変化に気付く力の向上と相談しやすい環境づくり
ウ　授業規律の回復と言語環境の整備
エ　ＳＮＳ上のトラブルの早期発見と家庭や関係機関（警察等）との連携

（２）生活規律の遵守と交通安全教育の徹底

ア　岱志五原則に則った基本的生活習慣の定着指導（＝職員全体による指導）
イ　交通ルール・マナーの遵守の徹底と防犯意識の向上
ウ　授業規律の遵守

（３）学習習慣の定着と授業改善～進路希望の１００％実現～

ア　新学習指導要領に基づく授業の構成と観点別評価法の確立
イ　公開授業・研究授業・授業評価・教科会を核とした授業改善ＰＣＤＡサイクルの確立
ウ　学習時間調査の分析と面談の充実

（４）普通科の在り方の検討とコースのさらなる充実・情報発信

ア　プロジェクトチームによる「普通科の在り方」検討の推進
イ　体育コース・美術工芸コースの特色に関する情報発信
ウ　荒尾市との連携（荒尾市による岱志高校支援事業）と取組の具体化